

新潟県 公民館月報

KOMINKAN GEPPPO

12

December 2017
No.778



歴史とロマンあふれるまち歩きツアー—中学生ガイド(新潟市北地区公民館)

地元の中学生在が地域の歴史や文化を学び、ツアーに参加した人たちにガイドを行っています。

4~5

特集

地域の茶の間「人と人とのつながりから広がる安心社会」

河田 瑠子

CONTENTS

- 2………… トピックス 「中越、下越地区公連 代議員会、研修会開催される」
- 3………… 視 点 「公民館連合会に勤務して」 公民館連合会事務局 広瀬 松司
ひろば 「地域の歴史を楽しむ」 見附市葛巻公民館館長 澁谷 隆司
掲 示 板 「調査概要まとまる」
- 6………… 実践記録シリーズ 村上市中央公民館家庭教育支援事業 村上市中央公民館
- 7………… サークル交流 「広がれ!!ふるさとの音」(聖籠町) / 「きもの美人になりたいくて」(長岡市)
素 顔 拝 見 神田 久利さん(阿賀町) / 内藤 豊さん(刈羽村)
- 8………… お元気ですか 「年齢にあらがう」 糸魚川市・橋本 敬子さん
ネットワー

中越、下越地区公連 代議員会、研修会開催される

＜中越地区代議員会＞

中越地区公民館連絡協議会代議員会が11月16日(木)長岡市中央公民館で開催されました。

この会議は、今年度の活動中間報告と来年度事業計画等を協議するために開催されました。19名の代議員全員と幹事等の22名で、今年度事業報告、会計中間報告、来年度事業計画、予算案を協議しました。また、来年度の役員選出や地区市町村負担金も協議され承認されました。



熱心な協議 中央は小千谷市の渡邊館長

役員は2年任期が今年度で終了し、来年度は新役員になります。会長は地区で初めて長岡市以外から選出され、平成30年度～31年度は三条市が会長になります。



あいさつ 佐藤副会長 右は水島会長

会議の開会時に、田原県公連事務局長があいさつのなかで、1 市町村負担金見直し会議の報告 2 文科省の機構改革の問題点を説明しました。

1 については、来年2月開催予定の評議員会で見直し案が提示されます。2については、現在(案)として文科省ホームページに公開中ですが、このまま実施される公算が強いことが説明されました。問題点としては①生涯学習局の名称をなくし社会教育課を廃止すること全国への影響が大きい。②3つの課に学習機能を並列させるのは生涯学習の「統合」の概念から逸脱するもので問題が大きい。

今後は、全国の生涯学習、社会教育の関係者で大きな議論を呼ぶことになるであろうと思われます。

＜下越地区公民館職員研修会＞

下越地区の第2回公民館職員研修会が、11月9日(木)に新発田市生涯学習センターで開催されました。栗島浦を除く(荒天のため欠席)全市町村から27名の参加でした。

講師に指田祐美氏(NPO法人 扉 代表)を迎え、熱気の高まった研修を終日行いました。

研修Ⅰ 午前中「成功事例でよく分かる！行列のできる講座の作り方」
研修Ⅱ 午後 「実践！思わず手にとるチラシの作り方」
研修資料は、1 企画力スキルアップチラシ集 2 ダメダメチラシ&Before Afterが配布されました。どちらも分かりやすく、すぐ応用できるような実践的な資料でした。午後の実習では、グループごとに仮想のチラシ作りを



熱心な研修でした



講師 指田祐美氏 加茂市出身

「新潟県公民館月報」 毎月15日発行 いつでも申込み受付中

公民館月報 定価1部160円 年間1,920円(いずれも送料含む)

申込先 〒950-2004 新潟市西区平島1301番地 中野プラザ107 新潟県公民館連合会 TEL・FAX025-266-7711



「地域の歴史を 楽しむ」

見附市葛巻公民館
館長 蒔谷 隆司



公民館活動に「男性の参加者が少ない。特に現在は年配者が多い時代であるはずなのに」こんなことが時々言われていました。何をすれば参加してもらえるかで思索しても大勢が共通の興味を持つものはありません。小人数であってもグループ活動ができることに価値があります。

地区内の小学校の校訓でありました「温故知新」、これは私も50数年前になります。これは私も公民館活動に「男性の参加者が少ない。特に現在は年配者が多い時代であるはずなのに」こんなことが時々言われていました。何をすれば参加してもらえるかで思索しても大勢が共通の興味を持つものはありません。小人数であってもグループ活動ができることに価値があります。

昔の地域は農村中心で日常の仕事におわれて歴史・趣味などの余裕もなく、言い伝えてくれる人も少なかったと考えられます。公民館として、このようなら「温故知新」、これは私も50数年前になります。これは私も公民館活動に「男性の参加者が少ない。特に現在は年配者が多い時代であるはずなのに」こんなことが時々言われていました。何をすれば参加してもらえるかで思索しても大勢が共通の興味を持つものはありません。小人数であってもグループ活動ができることに価値があります。

視点



公民館連合会事務局
広瀬 松司

「公民館連合会に勤務して」

公民館連合会の事務局に勤務して、8ヶ月が過ぎました。県公民館大会や地区の研修会で各公民館の素晴らしい取り組みにふれ、改めて公民館の存在意義を再認識しているところです。

私は、平成元年から3年間派遣社会教育主事として勤務をした経験があります。その当時、文科省では、社会教育局を生涯学習局と改組して、「いつでもどこでも だれでも」が学ぶことができる生涯学習社会の構築を目指す改革を行いました。新潟県では、当時の40市町村

に社会教育主事の資格を持った教員を派遣して、生涯学習体制の整備等に力を注いでいた時期でもありました。私が派遣された町での仕事は多岐に渡りましたが、公民館の活動にも多く関わって仕事をしました。多くの地域の人と関わることができ、私自身生涯にわたり学習することの大切さや必要性を学びました。教室や講座を企画しても、興味深く魅力のあるものでないと人は集まらないという厳しさも体験しました。また、公民館に集う人たちの活動から自分自身の生き方にも影響を受けました。特に高齢者の皆さんのお元気で生き生きとした活動を拝見し、「自分もこのように年齢を重ねていきたいら

いな」と強く思うようになりました。それ以来、地域の趣味のサークルに入り、現在も続けています。公民館の仕事は、自分の人生に大きな影響を与えた3年間であつたといえます。これから、医療技術が進めば、人生100年時代も近い将来にやってくると言われていきます。そうなれば公民館の役割は、高齢者の学習の場として一層重要になっていきます。各地域の公民館は、人づくりや地域づくりに欠かせない場所になると確信しています。

もうすぐ、公民館連合会も70周年を迎えますが、これを機に更に充実した公民館活動が展開されればと念じています。

掲示板 HOT NEWS 調査概要まとまる

8月に全国の公民館事業予算書の調査を行いました。このたびその結果がまとまりました。概要は次のとおりです。

1 事務所の設置
民間施設内に事務所を設置している都道府県は、新潟県とA県のみ。ただし、A県の施設は県所管のビルなので家賃はゼロである。したがって、公的施設外に事務所を設置しているのは新潟県のみということがわかりました。

2 事務局職員給与の負担
事務局員給与で、35都県は公費負担(一部パート雇用費を

公連予算)。新潟県と5道県は公連予算から全額支給しています。その支給割合は5道県が41%~66%で新潟県は33.6%であることがわかりました。

3 市町村負担金が総予算に占める割合
市町村が負担金として拠出している金額が総予算に占める割合は、50%以上が15都道府県でその割合は50%~75%でした。新潟県は49.2%でした。

その他のデータを含めて、来年2月に開催される評議員会で資料提示して「負担金見直し」の資料とします。

特集

地域の茶の間「人と人とのつながりから広がる安心社会」



河田 瑛子

写真提供(株)博進堂

地域の茶の間創設者
国際ソロプチミスト女性栄誉賞
頑張る女性の頑張る支援事業奨励賞
第1回「21世紀への道標賞」
ワンダフル・サードエイジ2005
平成19年地域づくり総務大臣表彰
(個人表彰)など多数受賞。

今、地域づくり・人づくりが全国どの市町村でも最大のテーマになっています。このような中、新潟市を中心に地域活動をしている「地域の茶の間」の実践が注目され、現在まで県内外からの視察が相次いでいます。今回の特集では、その活動の立ち上げから実際の運営や活動が目指すものを取り上げます。

「地域の茶の間」創設者である河田瑛子さんの活動は、平成3年、住民参加型の在宅福祉サービスマ「まごころヘルプ」の事務所が自然に居場所になったことから始まります。そのきっかけは、「誰かに会いたい」「誰かに話を聞いて欲しい」「誰かと一緒にお茶のみをしたい」「誰かの役に立ちたい」「誰かに自慢したい」「気分転換したい」「ちよつとだけ子供を預かってほしい」。こんな気持ちにこたえるべく、平成9年に子供からお年

寄りまで自由に集える「地域の茶の間」の活動を始めた。

平成15年、空き家利用で常設型地域の茶の間「うちの実家」を開始し、10年継続後、平成26年には新たな地域の茶の間として「実家の茶の間・紫竹」を開始。新潟市の「地域包括ケアシステム」モデル事業「実家の茶の間・紫竹」として開始し現在に至っています。

この活動を始めた動機や活動理念を河田瑛子さんは次のように述べています。

1 地域の茶の間の実践から

地域の茶の間 創設者 河田 瑛子

今、全国的に多様な居場所が、燎原の火のごとく広がっています。

「いきいきサロン」「地域の茶の間」「ふれあいの居場所」「縁側」「たまり場」「コミュニティカフェ」等と呼ばれるいろいろなですが思いは同じです。求められているのは、社会構造の変化の中で、多くの人々が失った人と人とのつながりの再生、そこから生まれる安心社会の再構築でしょう。誰にでも手軽に始められて、誰でも参加できる「居場所」なのですが、その地味な取り組みを継続することで、実に多くの効果が期待できます。その目的は、

- (1) 人と人とのつながり、人と社会とのつながりや、生きがいをつくる。
- (2) 知り合うことで、人の自由を知り、人へのやさしさが育ち地域に広がる。
- (3) いざという時、困ったときに気軽に助け合える人間関係が生まれる。

(4) お互い様の関係をつくり、地域に暮らし続ける安心感を育てる。

(5) 地域住民が、自らのために力(労力、物、知恵、金)を出し合う。

(6) 視野の広い子供に育つ、地域の人から見守られる安心感。子育て中の親の、孤独不安、拘束感の解消。

(7) 異世代、異文化の交流から、伝統、文化の伝承。(急須を使ってお茶を入れその地に伝わる料理、慣わし、作法、気遣い、生活の知恵…)

(8) 情報の共有化が一度にできる。(防犯、防災、健康相談 新しい制度…)

数え上げればまだまだありますが、実際に新潟県の災害時には被災地で「地域の茶の間」が避難所になり、不安、孤独、恐怖を和らげ、共感し、助け合い、心のつながる、ホッとする場にもなりました。また、一軒家をお借りしていた常設型の地域の茶の間「うちの実家」では、被災された介護が必要なお年寄りを、9日間お預かりして一緒に暮らししました。

「誰かに会いたい…」「誰かとお茶のみしたい…」「居られるところが欲しい」「ほんの少しの間、介護や、子守を代わって欲しい」

こんなささやかな願いをかなえる場として、平成3年、14畳の小さな事務所から出発した助け合いのみんなの居場所。平成9年「地域の茶の間」と命名し、平成12年には新潟県の長期総合計画の中で全県普及が打ち出されました。平成15年からは、空き家だった一軒家をお借りして常設型地域の茶の間になりました。大変地味な活動ですが、どこでも誰でも簡単に始められて、子

供からお年寄りまで、障がいの有無や、国籍などを問わず、誰でも参加できる居場所作りですが、先ずは知り合い、違いを認め、距離感を学び、支え合う、活かし合うことが、安心社会(じくへん)の一番の近道のようなのです。

2 「実家の茶の間」の運営

河田さんが運営する「実家の茶の間」にはいくつかのルールがあります。訪れた人がそれぞれ気持ちよく過ごしてもらい、まるで実家にいるようになってくつろいでもらうための「約束ごと」は河田さんや仲間たちがこれまでの活動で作りに上げてきたものです。

(1)参加者の約束ごと

- ① 営利を目的とした販売、政治、宗教活動の禁止
- ② プライバシーを侵さない。洩らさない。
- ③ あの人！という目をしたくない。人間関係のグループ化をさける。親しさが他を受け入れられない雰囲気になり、排他的になりやすいので注意する。集団の中で孤独を味わうと二度と来てくれない。
- ④ その場のいい人の話はしない。
- ⑤ 聞き出さない。
- ⑥ 台所以外でエプロンをしない。
- ⑦ 座席は固定しない。
- ⑧ 時間厳守。始めと終わりの時間を守る。途中の出入りは自由。
- ⑨ 配膳、下膳、庭掃除、除雪などを含めてできる人が自発的に行う。当番がすべてやるのではない。

(2)運営のポイントと工夫

①運営経費

参加者からは会費(年会費2,000円 1日300円 食費300円)を頂き、その他はバザー、寄付で運営。当番1名のみ有償(少額)。赤字は避けられている。

②地元自治会の協力

地元自治会に入り、会費を納入。回覧板での周

知やごみ当番もしている。バザー、除雪、庭木手入れ、来客時には近所の空き駐車場を借りるなど地域の協力を得ている。

③ 地元の小学生も利用

地元の小学生が授業の一貫として訪れたり、夏休みなどには誘い合って遊びに来ている。

④ 「夜の茶の間」として異業種交流の場

金曜の夜は「夜の茶の間」として異業種交流の場になっている。会社員、公務員、自治会員、事業者、医師など多くの人が参加している。この時だけは名刺交換があり、情報交換の場になっている。

⑤ 多様なネットワークを生かしたイベント利用

個々のネットワークとしての活用だけではなく、多様なネットワークを生かして講演会などを実施している。石山地区公民館、東地区社会福祉協議会、地元コミュニティ協議会、およびうちの実家が毎年共催している講座では、地域住民を対象に、不変な家でも暮らせるように、実践研修としてバリアだらけのうちの実家のなかで行っている。

⑥ 男性グループも継続活動

男性の料理教室に通っていたグループが年3回食事づくりを担当。退職者の男性が立ち上げた農園「いがた・夢農園」の連絡場所として活用。食材も提供してもらっている。

⑦ 災害時の避難所

2004・7・13水害時に要介護者9日間の生活の場として活用。2007、中越地震時には避難所になった。

⑧ 部屋の貸し出し

町内会役員会や生き辛さを感じている人たちのグループに部屋の貸し出し。障がいを持つ人たちが販売する焙煎コーヒー、トイレットペーパー、豆腐などを常時使用している。

3 茶の間の学校

河田さんの「地域の茶の間」を新潟市内に多く広めて開設するノウハウを学ぶために、新潟市中央公民館では「茶の間の学校」(校長・清水義晴さん)を講座として実施しています。11月7日(火)に新潟市中央公民館でその開校式が行われました。講座は6回にわたって行われます。

- ① 11月7日(火) 開校式
- ② 11月14日(火) 茶の間のつくり方Ⅰ
- ③ 11月21日(火) 茶の間のつくり方Ⅱ実習
- ④ 11月28日(火) 茶の間のつくり方Ⅲ会計
- ⑤ 12月12日(火) 茶の間のつくり方Ⅳ学びを深める
- ⑥ 12月19日(火) 学びの振り返り 修了式

4 河田さんは結びといて

居場所づくりを目的にするだけでなく、お互いの不自由を知り、できることを進んでやり、自然に助け合いがなされる地域づくりが大切だと考えている。そして、「助けて」といえる地域づくりにつながることを願っている。と結んでいます。

(参考資料:河田方式「地域の茶の間」ガイドブック)

文責: 田原



開校式であいさつ 左は篠田新潟市長



新潟日報記者から取材を受ける河田さん (11/7茶の間の学校開校式にて)

実践記録シリーズ

村上市中央公民館 家庭教育支援事業

村上市中央公民館

237

【はつめい】

中央公民館では、家庭教育支援の推進と男女が共にお互いを尊重し、共同参画することへの意識の醸成・高揚を図る取り組みを推進しています。

昨年度村上市では、新潟県少子化対策モデル事業の一環で一般社団法人クラウドライフ・シヤパン主催「ニイガタパスクール2016 in 村上市」を開催しました。共催として中央公民館と市内で子育て支援を行う村上市Ohanaネットが携わりました。この流れを引き継ぎ、中央公民館主催、村上市Ohanaネットの協力による講座を中心とした「村上市パスクール」と中央公民館と村上市Ohanaネットで家族で過ごす場の提供と簡単なワークショップを行う「のんびりPapa cafe」を開催しています。

この民間団体と協力する2つの事業は、市民が主体的に参加する公民館活動ですが、民間と行政が連携することにより広報や講座運営において効率的・効果的な事業運営が可能なものになっています。

【村上市パスクール】

今年度は年間4回の開催です。1回目は6月に「親子整体教室」で楽しくマッサージなどを行いました。スキンシップによる親子でのふれあいで子どもの自己肯定感も高まります。

2回目は9月に「DIY教室」で木琴作成と音遊びを楽しみました。村上市産の越後杉を素材に木琴の各パーツを組み立てました。出来

上がった木琴の音色は、鍵盤の長さの違いはもちろんですが、木材の乾燥具合等いろいろな条件の違いにより異なるそうです。そのため、音階の調整は難しく、時間内には調整できませんでしたが、「自然の木」としての面白さを楽しんでもらえたのではないのでしょうか。3回目は12月(料理教室)、4回目は来年3月(内容検討中)に予定しています。

【のんびりPapa cafe】

「村上市パスクール」の実施のない月に開催しています。絵本の読み聞かせや花育アドバタイザーによるフラワーアレンジメントのほか、牛乳パックで流しそうめん器を作ったり、楽しんだり、野菜や身の回りにあるものをスタンプにして押して遊んだり、ハロウィンイベ



親子整体



木琴作り



ハロウィンバッグ作成



のんびりPapa cafe

ントなどを行いました。自由におやつを食べたり、遊具やおもちゃで遊びながら毎回リラックした雰囲気で行っています。フリータイムでは、参加者の子育て方法の情報交換をする場にもなっており、参加者からは「悩んでいたのはうちだけじゃないんだ」「あんまり気にしない方がいいんだ」「こんな方法、やり方もあるんだ」などの感想が毎回出ています。

【今後について】

今後も父親を対象とした講座などを通して、父親がより一層、家庭生活や育児に参画する地域を目指した事業を推進していきたいと思えます。

(村上市中央公民館 主事 山田 浩介)



広がれ!!ふるさとの音

聖籠太鼓 響sato・oto

のどかな田園風景が広がる中、一際大きな建物から和太鼓の心地良い音が聞こえてきました。こ

こは、私達「響sato・oto」の練習の場、聖籠町の町民会館です。2000年の発足以来、お世話

になつてゐる会館です。発足当時はまだ太鼓が無く、毎週の練習はダンボールや古タイヤ等を叩

いておりました。時折、町の配慮で町内の集落や、隣町から本物の太鼓をお借りして叩いたときは、大変嬉しかったことを覚えてお

ります。現在、メンバーは小学生から70代までの32名で活動しております。近隣の保育園、小学校、福祉施設や各企業のイベント等に

参加させていただいております。聖籠町が今年で町制施行40周年の節目の年ということ、これを機会に町のキャラクターにもなっている、「緑丸」という鷹の伝説をモチーフに作曲を行いました。離島に置き去りにされてしまった主人を救うべく、手紙を持って都を往復した、忠実で勇気ある鷹の伝説を、太鼓の音に乗せて広めていこうと、メンバー一同、元気で楽しくをモットーに、笑顔で頑張っております。



聖籠町 聖籠太鼓 響sato・oto 会長 浅野 肇 記

きもの美人に なりたくて

サークルきもの美人

私達の会は長岡市生涯学習講座で発足し、今年で7年目を迎えます。月に1回着付けを習い、会員も少しずつ増えています。月の1回の集まりですが、お正月や、結婚式、茶会等にも一人で着物を着ることが

でき、外出も楽しんでいきます。サークルの活動は3か所の公民館で行っており、会員が近くの公民館を選ぶことができ、開催日の異なる会場に都合に合わせて参加できることがメリットです。又着物は帯を巻くことで背筋が伸び、姿勢がよくなります。さらに、着付けは手足を動かすための軽い運動にもなり、健康と美容に最適です。日本の公式の場では着物姿を多く目にします。日本の伝統文化である着物、そして、親が残してくれた着物を多くの方が着て町を歩いたら、きつと素敵な社会になるでしょう。オリンピックに向けて日本の着物をアピールしたいものです。



長岡市・サークルきもの美人 古塩 代子 記

阿賀町公民館

館長 神田 久利さん



4月から阿賀町公民館館長に就任された神田久利さんをご紹介します。

これまで、町民生活課、総務課と町民の生活基盤などを担う重要な部署を歴任されてこられました。社会教育行政経験者で通算16年目の即戦力でもあり、社会教育課長を兼任され、公民館事業やスポーツ振興、人権教育など様々な業務を担われ多忙な日々を送られています。

また、一見怖そうなルックスですが、温厚な人柄と優しい語り口で利用者や来館者に接し、私たち職員との相談にも親身に対応して下さる頼もしい上司であり、プライベートでは、登山や音楽ライブ鑑賞、小説作家さんの講演会に参加されるなど、多彩な趣味を持つバイタリティあふれる男性です。

豊富な知識と経験、大きなバイタリティを存分に発揮し、阿賀町公民館をより一層地域にとって大切なものにして下さることと思っています。

(阿賀町教育委員会社会教育課・井黒 知栄 記)

刈羽村生涯学習センター「ラピカ」

公民館職員 内藤 豊さん



内藤さんは刈羽村生涯学習センター「ラピカ」に勤務しています。施設窓口での受付や当館で主催する教室の会場設営、様々な資料の作成など幅広い業務に携わり、「ラピカ」になくてはならない存在です。

そんな内藤さんの心に残るイベントは先日行われた「全国植樹祭お手播き苗の植樹」です。天皇皇后両陛下が平成26年に種を播かれたスギ、アカマツ、ケヤキ、タムシバの苗木をボランティアの方々で植樹しました。イベントの成功に向け、新聞社など様々なところにPRを行うとともに、周りの人の気持ちを考えながら率先して丁寧に仕事を進めました。

こうした日々を送る内藤さんは、休日に全国各地を旅行する他、講座やイベントに参加して生涯を通じて学びを深めているそうです。

内藤さんから一言。「首都圏からも人を集め、地域のみなさんと一緒に、ラピカを通して刈羽村を元気にしていきたいと思っております。」

(刈羽村生涯学習センター「ラピカ」公民館職員 本田 雄大 記)

素顔拝見

ネットワーク

社会教育関係者元気アップ交流会開催

文部科学省が来年度の組織改革案で「社会教育課」を廃止することが全国の社会教育関係者で議論を呼んでいます。

このことや公民館の現状等を中心に話し合う集会がありました。

県生涯学習協会では、11月25日(土)に柏崎市谷根「旧山崎邸」で交流集会を開き県内外から多くの関係者が集まりました。県公連からは事務

局職員の田原・広瀬が参加しました。

講義として、日本社会教育学会長の長澤成次氏が「社会教育実践」について講義し全国の実践事例を紹介しました。また、社会教育課を廃止する問題点をあげて解説するとともに、現在の公民館職員の課題を指摘しました。集会には全国から著名な方々が参加しました。主な方々は、

元和歌山大学長 山本 健慈氏
早稲田大学講師 川野佐一郎氏
日体大教授 上田 幸夫氏
福井県公連前事務局長 野中 泉氏



熱弁をふるう 長澤成次氏

千葉大非常勤講師 越村 康英氏
他県外参加者2名 県内参加者19名 計26名

終了後、夕刻から懇親会が行われ夜遅くまで熱く語り合いました。

お・元・気・で・す・か
「年齢にあらがう」

橋本 敬子
(糸魚川市)



小学校・高校と合唱部員だった私は、その後20年近く歌から遠ざかっていた。が、末の子が小学校へ入学する少し前、地域の婦人会に合唱サークル「ささゆりコーラス」が誕生した。チャンス到来！早速家族の了解を得て入会し、月2回夜の練習に参加した。その後、婦人会は解散するも、合唱部は解散せず現在まで37年続いている。

その間、福祉施設等へのボラ

※お元気ですかのコーナーは現役をリタイアした方がその後も元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

ンティアに参加したり、芸能祭や合唱祭で歌ったり、また、練習日数を月4回に増やし、単独の記念コンサートも3回開催した。さらに、プロ歌手との合唱や、市民参加のオペラ・歌劇などにも出演し、貴重な体験をさせてもらった。「歌劇奴奈川姫」の劇中歌を歌い継ぐ「奴奈川姫を歌う会」や、郷土の文人相馬御風の作品を歌う「相馬御風の短歌(曲)を歌う会」にも入会し、三回

体の会員となる。合唱祭ともなれば、それぞれの会の衣装替えの時間を考慮しなければならず、出演順を決めるのに時間がかかったり、発表日間近には練習日が続いて忙しくなったりするが、それもまた楽しくもある。

70代の今、年齢に抗い、ソプラノ担当として高い音域と長い拍数を維持するには如何にすべきか、常に呼吸や腹筋の使い方を念頭において歌っている。最近、楽譜を持たず暗譜で歌うようにしている。張りのある生き生きとした生活を送るべく、公民館を拠点に生涯学習として練習に励んでいる。

未来に残そう美しい山村

山村地域は、食料の生産、水源のかん養、国土の保全、空気の浄化、心のやすらぎの提供など様々な役割を果たし、国民の生命と生活・財産を守っています。

全国山村振興連盟新潟県支部
支部長(糸魚川市長) 米田 徹
新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

事務局長のつぶやき

マスクの異様性については前回述べましたが、今回はサンングラス。マスクと同様に異様ではないでしょうか。昔やくざ者の定番は黒いサンングラスでした。自分の目を見せないことで相手に威圧感を与えていたのでしょうか。手前でサンングラスを外さないのは何となく不快で、不気味な感じがしま

す。人は目を見て分かり合えることが多いのですから、マスクと同様、相手に自分を見せたくないというのにはルール違反。いっそのこと某民放局の情報番組のMCのようにレスラーマスクをかぶる？このMCはまもなく消えるのではとにらんでいます。サンングラスはもととも光のまぶしさをさえぎるもの。夜にサンングラスをしている人を見ると笑ってしまいます。(田原)